山梨県立甲府第一高等学校　第96回

国公立大学 101名
令和5年度 大学合格者数 計472名
私立大学 371名

文化の香りがする懐の深い進学校

昨年度（令和5年度）卒業生の進学実績は、223名の卒業生のうち国公立大学合格者数は延べ101名であった。内訳は探究科38名、普通科63名、探究科では約68％、普通科では約38％となった。合格先も東北大学2名、名古屋大学、大阪大学、九州大学など難関大私立大学も合格者として多数合格した。また、371名となった。早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、自治医科大学をはじめ、首都圏を中心とした私立大学に数多く合格することができた。

昨年度の大学入試は今年度の「新課程入試」を控え、安全志向になるのではないかと言われていたが、強気な出願が多かった。それは、少子化に加え、選択方法が総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜指定期、後期など受験できる機会が増したり、理系学部を中心に「女子枠」が拡大したりと、受験の多様化が進んだことによる。

一高生の多くは、社会の変化のスピードが速く、予測しにくい世の中にあって、自分自身が関心のあることや好きなことを見つけ、大学などに進学してさらに深めていきたいと日々努力している。今も昔もその姿は変わらない。

放課後に自習室で学習する生徒たち

甲府第一高校弓道部は令和6年度8月に長崎県島原市で行われた全国高校総合体育大会（インターハイ）に男女団体、男女個人の計4部門で出場した。県勢の男女団体出場は平成5年度に巨摩高校が果たして以来31年ぶりである。今年度は同大会において、女子団体の部で6位入賞、男子個人の部で7位入賞を果たした。

また、弓道部では「全国に通じる人格・礼儀・礼節」を目標としている。武道としての目標が「人格の完成」であり、高校部活動は平成5年度に巨摩高校が果たして以来31年ぶりである。今年度は同大会において、女子団体の部で6位入賞、男子個人の部で7位入賞を果たした。

また、弓道部では「全国に通じる人格・礼儀・礼節」を目標としている。武道としての目標が「人格の完成」であり、高校部活動は平成5年度に巨摩高校が果たして以来31年ぶりである。今年度は同大会において、女子団体の部で6位入賞、男子個

8月に行われた全国高校総合体育大会の様子

文武両道・弓道部

深化する令和の一高 活動報告

探究科の取り組み

探究科は、平成28年に英語科から改編され1学年2学級設置され、探究活動を通じて、論理的思考力や国際的視野をもった人材の育成を目指している。現1年生は9期生となり、6期生までが卒業して各方面で活躍している。

本校は昨年度より、文部科学省「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」の拠点校として、探究科は高校生国際会議の開催や、高校生への高度な学びを提供するアドバンストドーム（AL）の中心となって活動を進めている。

探究活動を通じて、「課題発見力」「論理的思考力」「創造力」「コミュニケーション力」「発信力（英語プレゼンテーション力）」などを培い、より高い進路目標を持ち、その実現に努力している。また、文献のみに頼らず、現地に足を運んでの現状分析、取材活動等を展開し、徹底した実地調査に基づく探究を常に心がけている。

県内外の大学との連携や各専門分野の教授や学生との交流、各大学の公開講座における、先端研究の高度な学びを受講することができる。そして姉妹校であるオーストラリア・ヘンリー高校をはじめ、海外の連携校との授業での交流によって確かな英語活用能力の養成を図り、英語で議論・討論することのできるスキルを培っている。本年度は、台湾、アメリカ合衆国、ドイツ、マレーシアからゲストや留学生を迎え、国際交流も更に盛んになった。

令和7年度からは学校設定科目「探究プラス」を開設する予定である。「山梨から世界を変えていく人材」の育成を目標に掲げ、探究活動の深化に取り組んでいるところである。大学や企業、NPO法人との協働を強化し、英語力や科学的視野の育成にも力を入れている。

また、海外の企業や大学、高校と連携し、オンラインプログラムを実施することで、英語で議論する力も強化している。来年度は総仕上げとなる年として、さらに高いレベルの教育を目指している。

台湾の和平高校歓迎会

WWLコンソーシアム構築支援事業 拠点校
（文部科学省指定事業）

令和5年度台湾研修旅行での現地和平高校生との交流プレゼンテーション

文武両道　夢の実現へ　限りない挑戦を!!

ネッツトヨタ甲斐株式会社
代表取締役社長 小林 達也
甲府市朝気3-10-21 ☎055-232-5511
https://www.netz-kai.co.jp/

七沢歯科医院
院長 七沢久子（昭和47年卒）
甲府市里西4-8-35
☎055-232-1811
http://nanasawadental.com

甲府駅北口徒歩3分
甲州夢小路
街づくり文化企業 株式会社タンザワ 〒400-0862 甲府市朝気1-1-4 TEL.055-237-5207

医療法人 アウゲン
田辺眼科
田辺譲二（昭和41年卒）
☎055-278-0001㈹
甲斐市西八幡693-1（竜王中学校南200m）

世界人類が平和でありますように
日向山平和公園　世界平和を祈る霊場
日向山仏舎利平和宝塔
HINATAYAMA PEACE PAGODA
定林寺 院首 功刀貞如（昭和28年卒）
市川三郷町岩間4056（定林寺内）　☎0556-32-2226

原歯科医院
院長 原 俊（昭和47年卒）
甲府市幸町6-15
TEL 055-232-3211
FAX 055-232-9010

環境への想いをかたちに
クリーンな地球
安心して暮らせる街
私たちのストーリーは
人と地球の調和が
テーマです
真心と確かな技術
株式会社 早野組
本社 〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10 TEL.055-235-1111㈹ FAX.055-235-1109
■営業本部 TEL.055-232-8686
■早野リバブル TEL.055-268-3333

歯科一般・小児歯科・矯正
花形歯科医院
院長 花形哲夫（昭和50年卒）
花形博子（昭和51年卒）
甲府市千塚3-5-22 ☎055(251)9416

有限会社 宮川レッカー
代表取締役 宮川勇徳（昭和62年卒）
中央市若宮22-13
TEL 055-274-0090
FAX 055-274-3636

無病息災　疫病退散
御崎神社
甲府市美咲2-10-34
Tel 055(252)4519
Fax 055(251)7663

三神会計事務所
税理士 三神治彦（昭和45年卒）
甲府市相生2-4-8
TEL 055-235-1311

税理士法人
ポライト田中会計
POLITE TANAKA ACCOUNTING OFFICE
税務 会計 経営革新等支援
税理士 田中茂樹（昭和47年卒）
甲府市城東4-2-27
TEL.055-237-5566

Hosaka Dental Clinic
保坂歯科医院
院長 保坂裕幸（昭和46年卒）
甲斐市富竹新田406
☎055-276-2000

創業明治27年
甲府 風月堂
甲州銘菓 甲斐古餅
☎055-233-4554
甲府市中央一丁目1-23

安心と補償で明日を支える
甲府信用金庫指定特約保険代理店
株式会社 ひまわりサポート
代表取締役社長 宮沢謹吾
甲府市住吉1-13-4
TEL 055-232-2013㈹
FAX 055-232-2014

不動産企画コンサルタント
株式会社 立地企画
代表 望月薫（昭和37年卒）
甲府市伊勢1-4-16
TEL 055-233-5500
FAX 055-233-5501

LUCKY & CO.,LTD.
SINCE 1937
㈲ラッキーアンドカンパニーは1937年創業のジュエリーメーカー小売り会社です。
甲府のファクトリーでは、制作体験や工場見学、結婚指輪を購入することが出来ます。
ぜひお気軽にお越しください！
平成5年卒 代表取締役 望月直樹
昭和34年卒 相談役 望月政男

合格に近い山ヨビです。
専修学校 山梨予備校

柳町法律事務所
弁護士 細田浩（昭和41年卒）
甲府市中央1丁目1番18号
TEL 055-233-7124

在宅介護
株式会社 やさしい手甲府
代表取締役社長 根津 宏次
甲府市上石田1-7-14
TEL 055-236-6210

Yazaki
矢崎家具
甲府市寿町4-17
☎055-222-6865

■企画・制作　山梨新報社営業部　※掲載は五十音順

強行遠足 10月5日開催

創立144年という、県下の高校では最も長い歴史をもつ山梨県立甲府第一高等学校（通称・一高）。その伝統行事・強行遠足は今年96回目を迎え、10月5日に実施される。学力重視の風潮の中で、自己の体力の限界に挑戦する強行遠足は全国的にも注目される行事となっている。

台風や新型コロナのために中止やコース変更が続いてきた中で、ここ2年間は本来のコースでの強行遠足を行うことができた。今年度も強行遠足を行えることは、大勢の協力者の存在があってこそだという。

同窓生の思い出や同校のトピック、最近の学校生活などを含め、一高の取り組みを紹介する。

開始から百年の伝統

同窓会長 末木浩一（昭和47年卒）

甲府一高の伝統行事であります強行遠足が、今年も実施されます。二日間にわたる運営にあたっては、関係する多くの方々のご支援と協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

強行遠足も96回となりますが、この間終戦や台風、実施中の交通事故による生徒の死亡による中断もあったことから、今年は開始から百年の記念の年となります。

大正時代に始まり、昭和、平成、令和へと、時代が変遷に合わせて、よくご続いたものだと思います。目指す方面や実施形態の変更はありましたが、基本となるのは、高低差のきついの山越えの道をひたすら歩くことであります。決して楽しいものではありませんが、甲府一高の卒業生としてって必ずや高校生活の思い出のひとつとして残ったりするでしょう。

私の場合は、3年生の時に初めて山越えをして、千曲川沿いを歩いていると、時の夜明けの場面です。晩秋から初冬の時期で、暗く寒い中で陽が差して明るくなっていく時に感じた、風景の美しさと山形態の変化は今でも思い出します。

強行遠足とは何だろうと考えると、体力の限界に挑むことであると思いますが、長い距離をただ歩くことは、自分自身と対話する機会だと思っています。

強行遠足が、生徒の皆さんとそれぞれにとって、高校時代の貴重な経験となることを願っています。さあ、一足踏み出そう。

黙々と、ただ黙々と

校長 飯島清樹

午後3時の号砲とともに男子生徒たちは、一斉に山の手通りに飛び出していきます。皆一様に晴れやかな表情で、応援する女子生徒の前を誇らしげに通っていきます。

今年度96回を数える本校の伝統行事は、大正13（1924）年に第10代江口俊博校長の発案で始まりました。時代背景に見舞われ、出発時間を1時間遅らせて、スタートしましたが、結会情勢の変化に伴い、コースの変更や実施形態の改局野辺山までの途中中止変を重ねながらも脈々と継承され100年続く行事になっています。平成14年には、生徒が交通事故で亡くなるという痛ましい出来事がありましたが、ご遺族のご理解を得ながら、PTAと同窓会の多大なご協力によって、安全確保体制の充実を図りつつ、今日まで続けることができました。昨年は、女子がスタートから激しい雨に見舞われ、出発時間を1時間遅らせて、スタートしましたが、結局野辺山までの途中中止としました。女子からは不満の声も漏れましたが、健康と安全を考えた決断でした。

そして、今年も女子は高根から小海41・6㎞、男子は学校から小諸10４㎞のコースで強行遠足を実施できることに、改めて感謝申し上げたいと思います。独行遠足には、例年PTAや同窓会など、1000人近い方々が夜を徹して協力をしてくださいます。また、コース沿線の自治体や地元住民の方々にも、施設の使用をはじめ大きなご支援をいただいています。

本年も強行遠足が無事に安全に実施され、生徒たち自己の限界にチャレンジできるよう、職員一同万全を期して取り組みますので、皆様のご理解をいただけますようご協力お願いいたします。

学校を出発した男子生徒が、高根の坂を登る頃には、だいぶ疲労がたまってきます。ここまでくると気持ちで足を動かす状態です。本校の強行遠足は完走を目指しているのです。ゴールは自分が決めるものであり、ゴールに辿り着くわけではありません。